



千葉労働動力

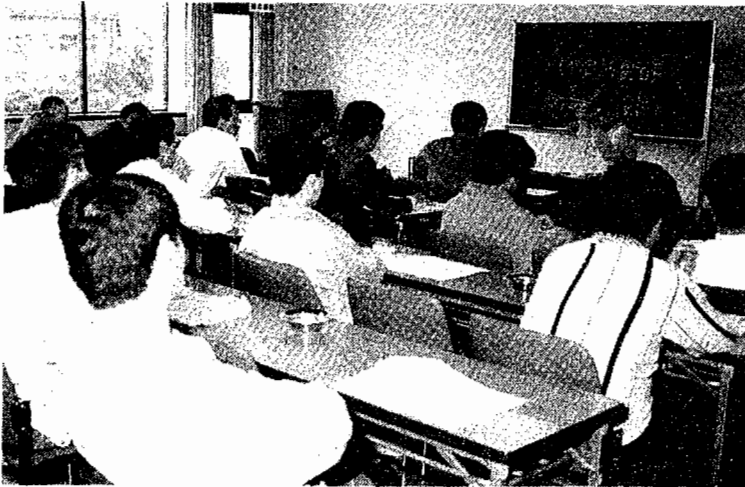
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番
※ 電話番号は4月29日から変更になります

92.5.18 No. 3591

相対する心 資本主義の矛盾 社会主義

第3回労働学校「激動する世界はどこに向かうのか」(島崎光晴さん)



五月一日、一三時から、労働者福祉センターにおいて、第VI期三回目の労働千葉労働学校が開催された。

講師には、経済学を専門に研究されている島崎光晴さんを迎えて、「激動する世界はどこに向かうのか」と題して、二時間にわたって現在の世界の動きとバブル経済崩壊後の日本がこれからどのように動くのかが、具体的な例を上げながら説明された。

内容は四項目に分けられ、まず第一項は、昨年末に崩壊したソ連に代わって登場したCIS(独立国家共同体)が、資本主義をまねようとして価格自由化に踏み切ったが、実は、スターリン主義の崩壊にプラスすることの資本主義化したことの矛盾により、最悪の事態になっていること。この行き着く先は、再び労働者解放のために

は社会主義の再考・再生がかちとられなければならないことが語られた。

第二項目は、ロサンゼルス「暴動」に見られるように、不況への突入と同時にいたるところで矛盾が吹き出し、アメリカによる「世界新秩序」が実は世界大乱になりかねないことが明らかにされた。

三項目は、東西ドイツの統一後、一九三〇年以後の高失業にみまわれ、「資本主義の再建」が吹きとんだこと。極右の台頭に対して、十代・二〇代の青年労働者が果敢に立ち向かい、ネオナチスと闘いぬいていることなど、マスコミに出てこない事実が語られた。

最後に、バブル崩壊後の日本の行方が語られ、土地と株により総額一〇〇兆円もの値上がりがあり、それは実に年間GNPの三倍に匹敵すること。三年間で五〇兆円を集めたワラント債が、バブル崩壊後は紙クズ同然になってしまったこと。この経済の破産と不況への突入という中で日本は、アジアへ向けての新たな侵略以外に生きる道はなく、PKOはそのためにかかすことのできないものであることが改めて明らかにされた。

結論として、資本主義の矛盾に対する本当の思想としては、社会主義以外にないことが鮮明にうち出された。

新たな侵略へと進む日本の姿を見た時、われわれは、絶対に戦争への道を許さない闘いに立ち上がらなければならない。六・一四全国集会へ結集しよう!

5.24三里塚現地へ 最大限で結集しよう

五月二四日、三里塚現地に

五月二四日、三里塚現地に
おいて、強制収用に道をひらくシンポジウムと隅谷調査団の提言粉砕、そしてPKO関連三法案を阻止するための全国総決起集会が開催されます。

三里塚をめぐる状況は、政府・運輸省が今秋にも第二タミナルビルの供用を開始しようとしているように、成田二期を、既成事実を積み重ねることで強制収用に世論を誘導し、反対同盟農民の農地を強奪しようとしています。

さらに沼田千葉県知事は四月六日、「シンポジウムは空港問題の平和的解決をめざすもの」と評価し、収用委員会の再建に乗り出すことを明らかにするなど、「公開シンポジウム」が、強制収用を引き出すためのセレモニーであったことが

明らかになってきています。

また、政府・自民党は、国会においてPKO法案を強行成立させ、掃海艇派遣に続く海外派兵の実績をつくらうとしている。

ベトナム戦争で手狭になった羽田にかわり、巨大軍事空港として計画された成田が、いまカンボジア侵略への輸送拠点となろうとしているのです。

われわれは車の両輪である反対同盟の要請に応え、三里塚を闘う労働運動こそが日本労働運動の再生への道であり、反戦闘争の砦であるという認識に立って、全力で闘いぬこうではありませんか!

五・二四全支部から三里塚現地に総結集しよう!

五・二四三里塚
全国総決起集会
日時 92年5月24日(日) 12時
場所 反対同盟所有地
全支部全力動員